



1 自己評価

I 評価結果

- ・昨年度評価結果とほぼ同じであった。「生徒指導」「経営と組織」「研修」の評価がよかった。課題としてボランティア活動や自然体験活動を生かした道徳教育の推進がある。

II 分析・改善方策

- ・心の教育の推進に向けて、生活ルール of 徹底・定着を図っていく。

2 学校関係者評価委員会

水杉 正明（田邑友遊館長） 高畑 益巳（田邑公民館長） 小林 武士（向陽小ひまわり児童クラブ指導員） 萩原 祐亮（元PTA会長） 柿本 裕（二宮公民館長）
時尾 近宏（本校保護者・PTA会長）

3 学校関係者評価

1. 学ぶ意欲の育成、基礎基本の定着

- 少しでも個々のレベルが上がるように頑張っていたきたい。繰り返し行うことが理解につながる。学んで理解出来たと感じる喜びを与えること。継続は力なり。
- 朝学習などの工夫も定着しており将来に期待が持てる。
- 何かのウイーク（週間）などを、設けた時は積極性を持って取り組むのでその姿勢を継続できるように児童が成長してもらいたい。

2. 心の教育の充実

- 規範意識の向上に向けて反復、継続した指導をお願いしたい。
- 2学期に比べ格段に向上しているように受け取りました。
- 普段からの会話の中で自然にあいさつができる環境が必要だと思う。
- 人の話を聞くことも大事。人の前で自分の意見、思いをちゃんと言えることも大事。今後生きていくことで必ず必要であり、これからも継続してほしい。よいことと思う。

3. 体力向上と健康増進

- 保幼小中の連携は特に重点を置いて、それに地域も含め、勉強以外の面、人とのつながりも勉強、体験させてはどうだろうか。
- 体力の低いところを体育の中に取り入れて力をつけていっていただきたい。
- 運動場、体育館が使えない中で工夫して取り組んでおられる。
- メディアが日常の生活リズムに様々な結果をつくっている。メディアとの関わり方について、学校・保護者・児童で関心を高めていくことが必要な時と思う。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1 心の教育の充実。

- 基本的な生活ルール（名札・帽子・くつそろえ・チャイムスタート・～さん、～くんと呼ぶ・本気でそうじ・だまって移動など）を身につけさせる。
- 協力協働場面を多く取り入れ、人間関係力を高める。
 - ・場に応じたことばづかいを指導する。
 - ・目標を持たせ協力することで達成できる場面を増やす。
 - ・異学年で学習する場面を増やすことで高学年の自己有用感、自己肯定感を高める。

2 学ぶ意欲の育成、基礎基本の定着。

- 基礎学力の定着を図る。
 - ・朝学習の充実（月1回程度、漢字検定・これっきり算数など全校で取り組む）
 - ・プリントをファイルさせ、定期的に点検を行う。
- 家庭学習の定着・宿題100%提出。
 - ・毎日、宿題提出チェックを行い、家庭との連携を図る。
 - ・学期に1回の家庭学習強化週間を設定し、取組を集約して指導に生かす。
- モデルを示し、「聞く力・話す力」を身につけさせる。
 - ・「チャイムスタート、しっかり聞く、次の時間の準備をして終わる」を徹底する。
 - ・「発表の仕方の例」を教室に掲示し、常に意識させ、話す力の向上をめざす。

3 体力向上と健康増進。

- 運動の機会を充実させ、体力・運動能力の向上に努める。
 - ・年間指導計画に基づき、授業の中で体力づくりを進める。
 - ・朝の学習の枠で「持久走」を行う。（10月予定）
- 規則正しい生活習慣づくりの推進。
 - ・生活リズムの定着を図るために、引き続き「早寝・早起き・朝ご飯・メディア視聴時間」の取組を保護者と協力し取り組む。
 - ・食育・食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の形成を図る。